

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	4	課題区分	C	2025年1月15日	
横断的な課題		人口減少下における持続可能な地域づくり						木曽地域振興局
地域重点政策		人口減少下における持続可能な地域づくり						
実施機関		木曽地域振興局				担当課	所属	
事業名		ふるさとの思い出造成事業					電話	0264-25-2212
						E-mail	kisochi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	・地域の子どもたちが地域資源(もの、技術)を活用し、地域貢献活動を体験することで、地元への愛着を深め、将来の地域定着・回帰を促進させ、また子供たちが地元企業と協力して作業することにより、地域への愛着と地元企業の周知を促し、地域の産業活性化へと繋いでいくことで、持続可能な地域づくりを推進することを目的とする。						
	現状と課題	・木曽地域の急激な人口減少に対応するため、今年度立ち上げた「木曽地域人口減少対策戦略検討会」において、地域の様々な属性の皆さまと「今、自分たちに何ができるだろう」ということで意見交換を重ねる中で、「いったん木曽から外に出て、いつかまた木曽へ戻ってきてもらうためには、小さいころからの木曽地域での思い出作りが大切だと思う。」「お祭り参加、触れ合い体験などの木曽での楽しかった経験は、大人になっても忘れない。木曽へ戻りたくなる」「今の子どもたちにも、そういう心に刻まれるような思い出づくりをさせてやりたい」といった意見をいただいたところである。 ・木曽地域では、就学・就職を機にふるさとを離れてしまう若者が多い。人口減少が加速している中、少子化対策、移住促進と併せ、若者の人口流出対策も課題となっている。参加者には作業を通じて思い出に残る体験をしてもらい、関係人口の増加、将来的な地元回帰に繋げることが必要である。 ・毎年度、1町村にスポットをあて、町村固有の特産品等(もの・技術)を活用し、記念品の製作体験などを行っている。体験した子供・保護者に地元企業を知ってもらう機会とし、将来木曽地域への回帰を促す手助けとなることを期待している。体験作業に関しては県と町村で協働して実施するが、次年度以降については、町村の単独事業として、今後に繋げていく。 ・木曽地域振興局 企画振興課では毎年度、町村からの交流職員が担当する事業として位置づけており、R2は南木曽町、R3は木祖村、R4は木曽町、R5は王滝村の交流職員が担当し、このノウハウを持ってそれぞれの町村へ戻り事業を継続させているところである。今年度は大桑村の交流職員が担当している。						
概要	内容 (変更後の内容)	〈令和6年度:大桑村〉 ・地元の中学生を対象に、老朽化した木製ガードレールの丸太部分の取り換え作業を体験してもらう計画である。木製ガードレールは木の温かみを感じることのできる、山に囲まれた木曽らしい道路設備ではあるが、平成初期に設置されたものが多く、木製のため村内各所で老朽化が課題となっており、村でも近年計画的に取り換えを実施している。 ・木製ガードレールに使用する材木は、木曽地域の間伐材を利用した製品である。大桑村では林業体験学習に注力しており、中学1年生は植樹作業、中学2年生では間伐作業の体験学習を実施している。山林所有者の高齢化や安価な外国産木材の輸入により、国内林業は衰退しているものの、木材を使った資材に触れてもらうことで、林業へ興味・関心を持ってもらい、林業人材確保にもつながることを期待する。 ・大桑村には建設事業者が多数あり、公共建設事業が盛んである。地元の事業者にも協力いただき、協働で作業を行うことにより、建設業の仕事に興味を持ってもらい、人手不足が課題となっている建設業界の就労促進・人材育成も図りたい。 ・子供たちの取り換えた木製ガードレールが多くの方々に見てもらえるよう、なるべく交通量(人通り)の多い個所を選定する。マスコミや村広報誌へも周知する。 ・次年度以降も、村において継続してこの事業に取り組んでもらうための足掛かりとする。 ・作業を体験していただく中学2学年の今年度の学年目標は「地域のために役に立つこと」であり、自分たちが地域貢献したという達成感を感じ、今回の作業が記憶に残るような思い出となるようにしたい。 【今までの検討内容】 ・令和6年5月22日:村、教育委員会、中学校と打ち合わせ(事業説明) ・令和6年5月27日:資材事業者と打ち合わせ(木製ガードレールの資材について) ・令和6年6月 8日:村と打ち合わせ(事業個所の選定について) ・令和6年7月25日:建設業協力会、村と打ち合わせ(事業内容の詳細について) ・令和6年8月23日:建設業協力会と打ち合わせ(現場立ち会い、作業工程の打ち合わせ) ・令和6年10月11日:村、教育委員会、建設業協力会へ正式に協力依頼 ・令和6年10月16日:中学校と企画の最終確認(当日のフロー、事前学習会について) ・令和6年10月29日:参加する中学生を対象に事前学習会を開催 ・令和6年10月31日:協力事業者と打ち合わせ(当日のフローについて) ・令和6年11月8日:木製ガードレール取り換え作業、防腐剤塗布作業実施(生徒14名、教員2名、協力会3名、商工会2名、村1名、県2名が参加) ・令和6年11月下旬:事業実施後アンケート調査を実施 ・令和6年12月中旬:村広報誌12月号にて当事業を掲載						
	事業期間	令和6年9月 ～ 令和7年1月						
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考				
	木製ガードレール取り換え作業	事前準備委託料(測量、長さ調整) ※購入する丸太が工場から出荷される規格品のため、設置する場所に合わせて調整が必要となる	74,888	重機使用料 16,680円×1日=16,680円 作業員人件費 23,200円×2人=46,400円 機材損料・備品 5,000円 (16,680 + 46,400 + 5,000) × 1.1 + = 74,888円				
		取り替え用丸太購入(2m×18cm)	124,740	資材費 12,600円×9本*1.1= 124,740円 (生徒14名 2人1組で作業実施)				
		作業用消耗品費等	20,260	軍手、マスク、バケツ、ハケ等消耗品 14,740円 文房具類 5,019 × 1.1=5,520円 合計 20,260円				
合 計		219,888						
達成指標状況及び	成果指標		目標値	成果	達成状況			
	終了後アンケートの満足度		80%	100%	◎ 達成 ○ 一部達成			
					○ 未達成			
事業実績	・村の建設事業者の組合である「大桑村建設事業協力会」の協力のもと、11月8日に老朽化した木製ガードレールの取り換え作業及び、防腐剤塗布作業を実施した。生徒14名をはじめ、教員、地元業者、役場関係者等計24名が参加した。 ・作業に先立って開催した事前学習会では、当企画の趣旨及び目的について人口減少が進む当地域の背景も交えて学習した。 ・事後アンケートでは、生徒から「地元に貢献できた」「地域の役に立てたことが嬉しい」などの声が多く聞かれ、参加生徒の満足度は100%を達成した。地域貢献活動を通して、地元への愛着を深められたと同時に、将来の地元回帰に向けて意義のある事業が実施できたと思われる。 ・村広報誌に当企画の取り組みを掲載し、広く住民に周知した。							
今後の方向性	人口減少対策戦略検討会にて、幼少の頃の思い出が将来の地元回帰に繋がることがわかった。来年度以降も大桑村独自で継続して事業実施し、地域愛の醸成と地元回帰の促進を図っていく。							